

大学の歯

2004.4.25

# 連載 21世紀の大学に求めるべき課題 1



中嶋 嶺雄  
国際教養大学学長

平成十六(二〇〇四)年四月一日、わが国の高等教育の歴史にとってもエポック・メイキングな大学法人化が実現した。すなわち全八十九の国立大学と、公立大学として唯一、秋田県に新設された国際教養大学が、独立行政法人法の法的枠組みのもとで、それぞれ国立大学法人、公立大学法人としてスタートした。

## 大学法人化時代の高等教育

に大きい。なぜなら、いわゆるグローバル化の進展は、今後、高等教育の領域をも巻き込んでますますポータルレスになっていくことは間違いない。日本人学生を対象に日本人教師が日本語で授業をするという従来の日本の大学における「知の鎖国」は、もはや国際的に通用しなくなる

に大きい。なぜなら、いわゆるグローバル化の進展は、今後、高等教育の領域をも巻き込んでますますポータルレスになっていくことは間違いない。日本人学生を対象に日本人教師が日本語で授業をするという従来の日本の大学における「知の鎖国」は、もはや国際的に通用しなくなる

このような歴史的転換期にあつて、わが国の高等教育が直面している課題は実務している。このこと

このような歴史的転換期にあつて、わが国の高等教育が直面している課題は実務している。このこと

四月一日の国立大学法人等の発足にあたり、河村建夫文部科学大臣より、談話が発表された。

【文部科学大臣談話】

本日(平成十六年四月一日)、国立大学法人法に基づき、八十九の国立大学法人及び四つの大学共同利用機関法人が誕生しました。我が国の国立大学等が新造と継承を担う拠点である国立大学等の役割は極めて重要であり、人材育成及び

組を積み重ね、切磋琢磨しながら国民の期待に応えていくことこそ、この改革が目指している姿です。その意味で、本日踏み出した第一歩は、新たな飛躍に向かつてのはじめの第一歩に過ぎず、今後とも関係者一人一人のたゆまぬ自覚と努力が求められます。そこで、各大学等にあらためてお願いしたいのは、学術研究の一層の活性化はもとより、これまで指摘されてきた教育機能の強化や

きる機会が増える」など良いとし、「十月」は「あまり早すぎる」と生徒の認識が固まっている。「指導上、時間がほしい」「公募推薦と重なる」と対応できないなどの理由から良いとされている。実際には、「六月」エン

○勝手に受験されて学校が把握できないと困る。次の手や生徒の指導の  
がつくるために必要。  
○本来は不要であるべきかもしれない。現状のAO入試は生徒の力以上

高 校 教 諭 A O 入 試 ア ン ケ ー ト よ り